

SONY

2008年度第3四半期 連結業績概要

(2008年12月31日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見直し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見直しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向ならびに最近の金融市場および住宅市場における世界的な危機、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力およびその時期、(5)ソニーがエレクトロニクス分野でビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に十分な経営資源を適切に集中させられること、(8)主にエレクトロニクス分野およびゲーム分野において、ソニーが製品品質を維持できること、(9)ソニーと他社との合併、協業、提携の成否、(10)係争中の法的手続きまたは行政手続きの結果、(11)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(12)(市場の変動を含む)日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の収入および営業利益に与える悪影響などです。ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

Sony Corporation Investor Relations

FY08.3Q 連結業績

SONY

(億円)

	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	28,590	21,546	-24.6%	-9%
営業利益**	2,362	-180	-	-54%
うち、持分法による投資利益	469	-108	-	-
うち、構造改革費用	112	120	+7.4%	-
税引前利益**	3,353	665	-80.2%	-
当期純利益	2,002	104	-94.8%	-
1株当り当期純利益(希薄化後)	190.29 円	9.98 円	-94.8%	-

為替変動による業績への影響額

	約	平均レート	FY07.3Q	FY08.3Q
売上高および営業収入:	約 -4,470 億円	1 ドル	112 円	95 円
営業利益:	約 -1,270 億円	1 ユーロ	162 円	125 円
		その他通貨		28% 円高

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
 ** ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、およびUS-LCDの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08.1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。この変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。

FY08.3Q セグメント情報および関係会社業績

SONY

(億円)

連結セグメント		FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	20,694	14,621	-29.3%	-14%
	営業利益	2,006	-159	-	-61%
ゲーム	売上高	5,812	3,938	-32.2%	-18%
	営業利益	129	4	-97.0%	+156%
映画	売上高	2,238	1,751	-21.8%	-8%
	営業利益	141	129	-8.3%	+6%
金融	金融ビジネス収入	1,359	1,031	-24.1%	-
	営業利益	-42	-374	-	-
その他**	売上高	960	1,986	+106.8%	-
	営業利益	222	245	+10.0%	-

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース
 ** 当四半期の「その他」には、2008年10月1日付でソニーの100%連結子会社になったソニーBMG(2009年1月1日付でソニー・ミュージックエンタテインメント(「SME」)に社名変更)の業績が含まれています

ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、およびUS-LCDの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08.1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。この変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。

主要持分法適用会社

		10/07 -12/07	10/08 -12/08	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	3,771	2,914	-23%
	税引前利益	501	-256	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社との間で、ソニーが50%の株式を保有する持分法適用会社です

FY08 連結業績見通し

SONY

(億円)

	FY07	FY08見通し	前年度比
売上高および営業収入	88,714	77,000	-13%
営業利益*	4,753	-2,600	-
うち、持分法による投資利益	1,008	-200	-
うち、構造改革費用	473	600	+27%
税引前利益*	5,671	-2,000	-
当期純利益	3,694	-1,500	-
設備投資額	3,357	3,800	+13%
うち、半導体投資額	900	800	-11%
減価償却費**	4,280	4,100	-4%
研究開発費	5,206	5,300	+2%
為替レート	FY07 実績レート	FY08 前提レート (4Q)	
1 ドル	113 円	90円前後	
1 ユーロ	160 円	120 円前後	

* FY08より持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、上記の FY07 業績をFY08見通しの表示に合わせて組み替え再表示しています。

** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む

5

Investor Relations

FY08.3Q エレクトロニクス

SONY

売上高および営業利益

(億円)

FY08.3Q 業績

売上高: 29.3%減少 (外部顧客向け売上:29.1%減少)

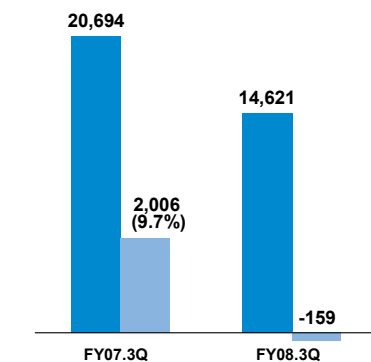
・減収: 為替による悪影響、世界的な景気後退にともなう環境の悪化、価格競争の激化

営業利益: 159億円の損失を計上

・(一)要因: 為替、売上減、持分法による投資損益の悪化

製品別:

・減益: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「VAIO」、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」



前年同期比 (LC)

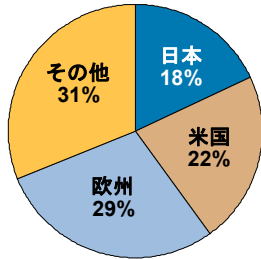
項目	前年同期比 (LC)
売上高	-29.3%
営業利益	-61%

FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。なお、主要な持分法適用会社のうち、ソニー・エリクソンおよびS-LCDの持分法による投資損益はエレクトロニクス分野の営業利益に含まれています。

セグメント間取引を含む / LC:現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

6

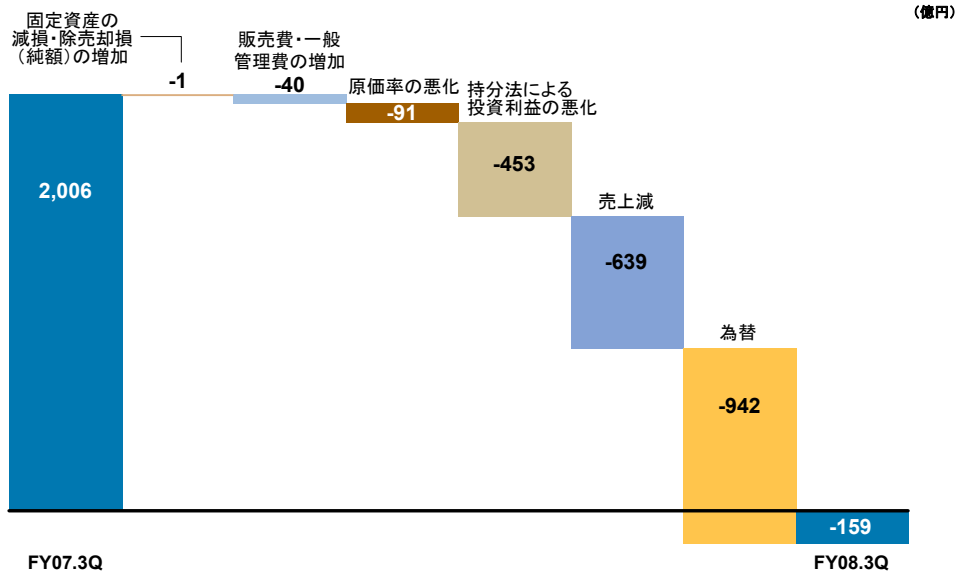
Investor Relations



営業収入を除く
外部顧客に対する売上
13,097億円 -29% (LC -12%)

- 日本: -17%**
 - 増収: “ブルーレイディスク”レコーダー
 - 減収: 半導体、PC「VAIO」、液晶テレビ「BRAVIA」、携帯電話端末、ビデオカメラ「ハンディカム®」
- 米国: -35% (LC -23%)**
 - 増収: “ブルーレイディスク”プレーヤー
 - 減収: 液晶テレビ「BRAVIA」、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」、PC「VAIO」
- 欧州: -29% (LC -4%)**
 - 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」
 - 減収: ビデオカメラ「ハンディカム®」、PC「VAIO」、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」
- その他: -32% (LC -9%)**
 - 増収: 半導体
 - 減収: ブラウン管テレビ、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」、ビデオカメラ「ハンディカム®」、光学ピックアップ

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC:現地通貨試算ベースの伸び率

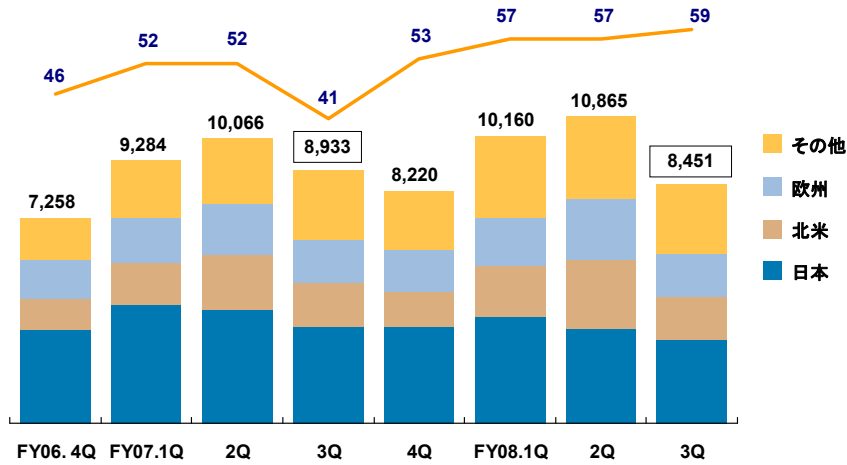


FY08.1Qより持分法による投資利益を営業利益の一部として報告する変更にとともに、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。なお、主要な持分法適用会社のうち、ソニー・エリクソンおよびS-LCDの持分法による投資利益はエレクトロニクス分野の営業利益に含まれています。

FY08.3Q エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)

SONY

(億円、日)



・ 8,451億円 (前年同期末比 482億円の減少。2008年9月末比では、2,415億円の減少)

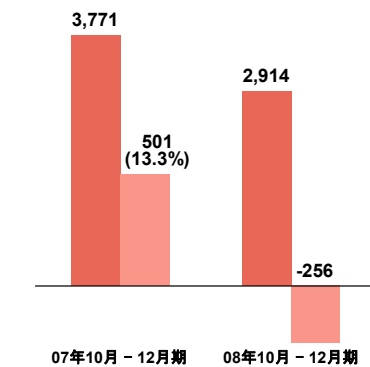
棒グラフ: 棚卸資産(億円単位)
折れ線グラフ: 棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産 ÷ 期中平均日次売上)

08年10月-12月期 ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ (持分法適用会社)

SONY

売上高および税引前利益

(百万ユーロ)



08年10月-12月期 業績

売上高:

- ・ 製品需要の減少および信用収縮にともなう販売台数の減少などにより 23%減収
- ・ 販売台数は前年同期比 21%減少の2,420万台

税引前利益:

- ・ 販売台数が減少したこと、中・上位機種の販売構成比の低下および 価格低下圧力の影響、ならびに構造改革費用の計上などにより大幅に悪化

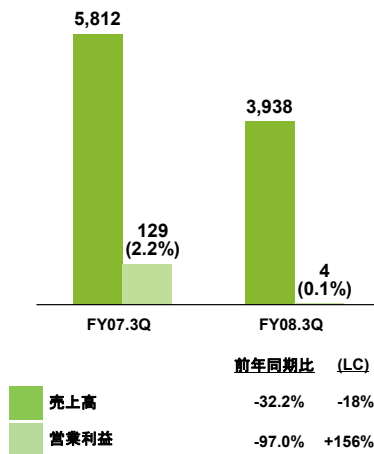
ソニーへの影響額: 持分法による投資損失は115億円

ソニー持分への影響額

	07/10-07/12	08/10-08/12	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	373	-183	-
ソニー持分への影響額(億円)	304	-115	-

税引前利益下の(%)は税引前利益率

売上高および営業利益



FY08.3Q 業績

売上高:

- 為替の影響に加え、PS2、PSP、PS3の売上数量が減少し、セグメント全体で減収

営業利益:

- 為替の影響、PS2およびPSPビジネスの売上減少により、全体で減益となったものの、PS3ハードのコストダウンが順調に進んだことにより黒字を維持

棚卸資産額:

- 前年同期末比155億円増加の1,985億円

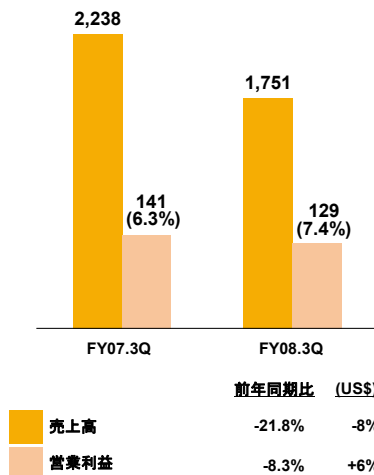
売上台数

		FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比
ハード(万台)	PS2	540	252	-53%
	PSP	576	508	-12%
	PS3	490	446	-9%
ソフト(万本)	PS2	6,090	2,970	-51%
	PSP	1,830	1,550	-15%
	PS3	2,600	4,080	+57%

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および営業利益

(億円)



FY08.3Q 業績

売上高: 21.8%減少、米ドルベースで8%減少

- 「007/慰めの報酬」の劇場興行収入は好調だったものの、前年同期には全世界で「スバイダーマン3」のDVDソフトが発売されたため、全体では減収

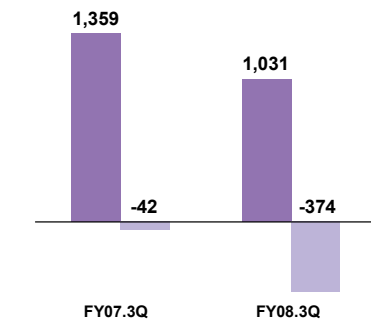
営業利益: 8.3%減少の129億円、米ドルベースで6%増加

- 米ドルベースでの増益は、主に、「007/慰めの報酬」が大きく貢献したことによる

FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。

セグメント間取引を含む / US\$: SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

金融ビジネス収入および営業利益 (億円)



前年同期比

金融ビジネス収入	-24.1%
営業利益	-

FY08.3Q 業績

金融ビジネス収入: ソニー生命の減収により、24.1%減少

- ・ ソニー生命の収入: 32.5%減少
- (-) 要因: 日本の株式相場下落幅が前年同期の下落幅を上回った結果、特別勘定における運用損失および一般勘定における株式の減損が増加したこと
- (+) 要因: 保有契約高の堅調な推移により保険料収入は増加

営業利益: ソニー生命の損失増加により374億円の損失を計上

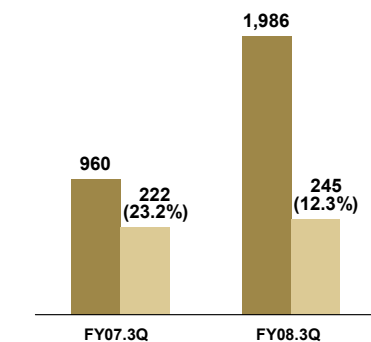
- ・ ソニー生命: 377億円の損失を計上
- (-) 要因: 株式相場の大幅な下落にともない、特別勘定において変額保険にかかる責任準備金を追加計上したことおよび一般勘定において株式の減損が増加したこと
- (+) 要因: 上述の保険料収入の増加

ソニー生命の業績

	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比
収入 (億円)	1,078	728	-32.5%
営業利益 (億円)	-60	-377	-

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および営業利益 (億円)



前年同期比

売上高	+106.8%
営業利益	+10.0%

FY08.3Q 業績

当四半期の「その他」には、2008年10月1日付でソニーの100%連結子会社になったソニーBMG (2009年1月1日付でソニー・ミュージックエンタテインメント (SME) に社名変更) の業績が含まれています。

売上高: 前年同期比106.8%の増収

- ・ 主に、SME が連結された影響による
- ・ SMEの売上: 1,052億円、米ドルベースで22%の減収 (連結されていなかった前年同期との比較)
 - ・ 主に、世界的な景気後退によって全世界におけるパッケージメディアの音楽市場の縮小が加速していることや、為替による影響があったことにより減収
- ・ SME が連結された影響を除く: 主に SMEJ の減収により減収
- ・ 売上貢献アルバム:
 - SME: AC/DCの「悪魔の氷/ブラック・アイス」、ピヨンの「アイ・アム... サーシャ・フィアース」、PINKの「ファンハウス」、プリトニー・スピアーズの「サーカス」など
 - SMEJ: 中島美嘉の「VOICE」、YUIの「MY SHORT STORIES」、いきものがかりの「My song Your song」など

営業利益: 10.0%増加の245億円

- ・ 主に、SME が連結された影響による
- ・ SMEの営業利益: 144億円、円ベースで41%の減少 (連結されていなかった前年同期との比較)
- ・ SME が連結された影響を除くと、減益

FY08.1Qより特分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にともない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています。

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

FY08 エレクトロニクスおよびゲームの売上数量見通し

SONY

エレクトロニクス

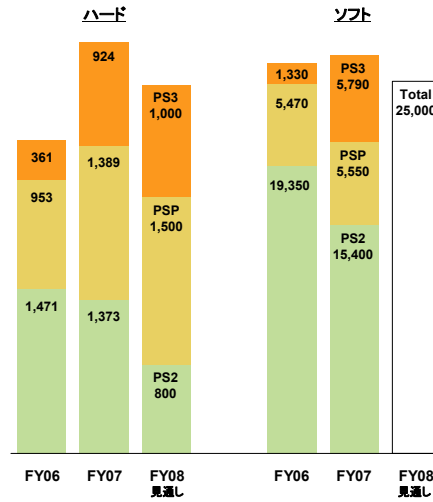
(万台)

	FY07	FY08 見通し
デジタルミュージックプレーヤー「ウォークマン®」	580	700
ビデオカメラ「ハンディカム®」	770	620
コンパクトデジタルカメラ「サイバースhots」	2,350	2,150
“ブルーレイディスク”レコーダー	-	50
“ブルーレイディスク”プレーヤー	-	220
DVDプレーヤー*	850	900
DVDレコーダー	170	120
液晶テレビ「BRAVIA」	1,060	1,500
PC「VAIO」	520	580

* DVDプレーヤーはFY08よりポータブルDVDプレーヤーを含む(FY07は組み替え再表示しています)

ゲーム

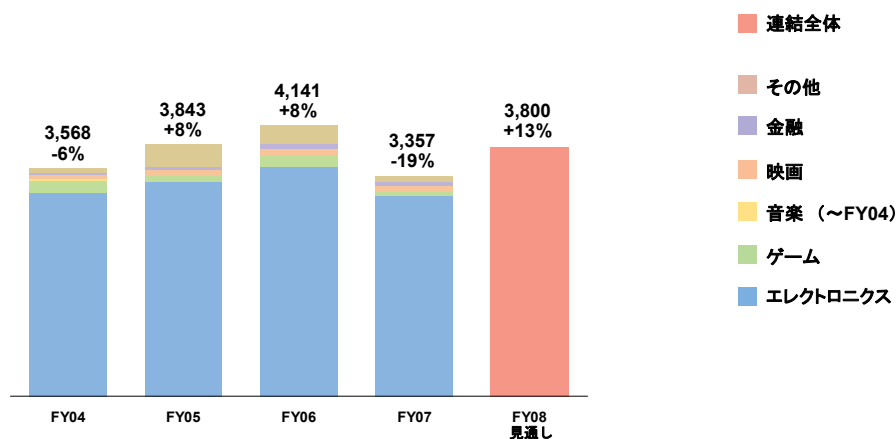
(万台、万本)



FY08 設備投資額見通し

SONY

(億円)



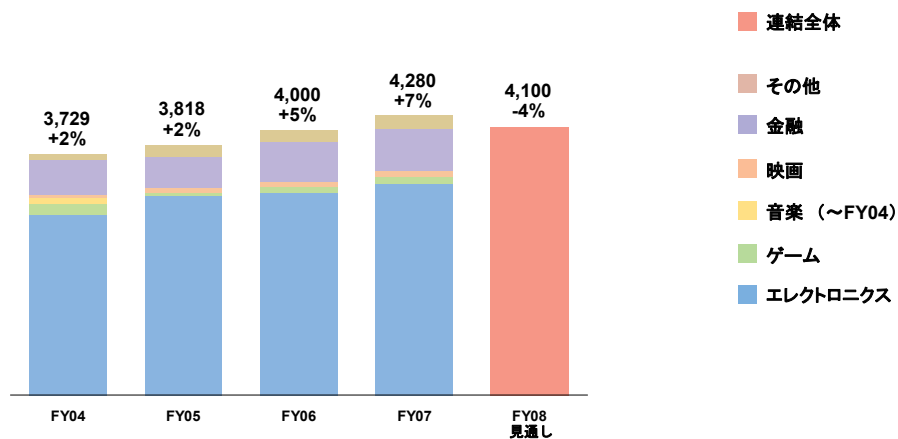
・ FY08設備投資額見通しのうち、半導体向けは800億円(FY07は900億円)

%は前年度比伸び率

FY08 減価償却費および償却費見通し

SONY

(億円)



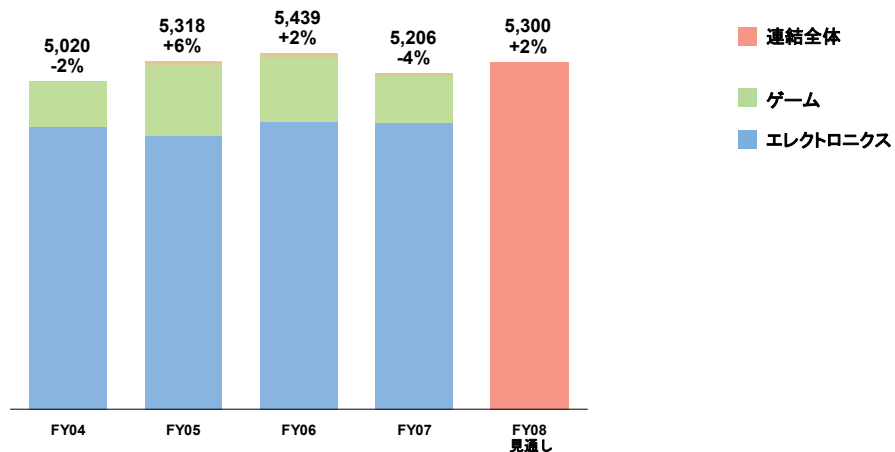
・ FY08減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,100億円(FY07は3,289億円)

%は前年度比伸び率

FY08 研究開発費見通し

SONY

(億円)



%は前年度比伸び率

FY08 4月-12月期 連結業績

SONY

(億円)

	FY07 4月-12月期	FY08 4月-12月期	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	69,186	62,059	-10.3%	+0%
営業利益***	4,691**	665	-85.8%	-40%
うち、持分法による投資利益	900	-74	-	-
うち、構造改革費用	331	135	-59.3%	-
税引前利益***	5,501	1,367	-75.2%	-
当期純利益	3,404	662	-80.6%	-
1株当り当期純利益(希薄化後)	323.42 円	63.16 円	-80.5%	-

為替変動による業績への影響額

	平均レート	FY07 4月-12月期	FY08 4月-12月期
売上高および営業収入:	約 -7,280 億円	1 ドル 116 円	102 円
営業利益:	約 -2,160 億円	1 ユーロ 161 円	149 円
	その他通貨		14% 円高

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

** 日本社跡地の一部の売却益607億円が含まれる

*** ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、およびUS-LCDの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08 1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。この変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています

FY08 4月-12月期 セグメント情報および関係会社業績

SONY

(億円)

連結セグメント		FY07 4月-12月期	FY08 4月-12月期	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	51,618	45,545	-11.8%	-1%
	営業利益	4,314	1,041	-75.9%	-31%
ゲーム	売上高	10,212	8,920	-12.6%	-2%
	営業利益	-1,130	-337	-	-
映画	売上高	6,448	5,308	-17.7%	-6%
	営業利益	224	157	-30.1%	-18%
金融	金融ビジネス収入	4,782	3,868	-19.1%	-
	営業利益	527	-321	-	-
その他**	売上高	2,754	3,810	+38.3%	-
	営業利益	417	347	-16.8%	-

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

** 当9ヶ月間の「その他」には、2008年10月1日付でソニーの100%連結子会社になったソニーBMG(2009年1月1日付でソニー・ミュージックエンタテインメント(「SME」)に社名変更)の第3四半期の業績が含まれています。また、2008年9月30日まで、ソニーBMGの投資損益は、ソニーの「その他」に含まれていました。

ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、およびUS-LCDの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08 1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。この変更にもない、過去の全ての会計期間の営業利益および税引前利益を組み替え再表示しています

主要持分法適用会社		07/04 - 07/12	08/04 - 08/12	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	9,991	8,542	-15%
	税引前利益	1,212	-261	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社との間で、ソニーが50%の株式を保有する持分法適用会社です